

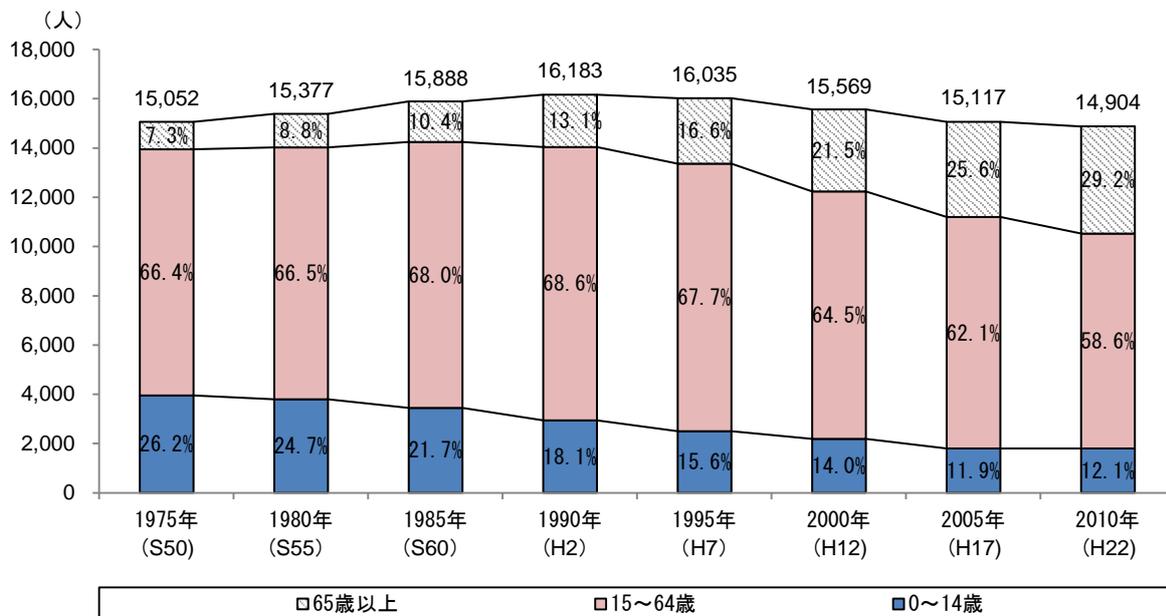
第13章 安岡地区の個別分析

安岡地区の人口の状況について、個別の分析を行います。

1 安岡地区の人口推移

安岡地区の人口は、図表 13-1 のとおり 1990(平成 2)年までは概ね増加傾向にあり、以降は、減少傾向に転じています。高齢化率は年々上昇していますが、生産年齢人口(15～64 歳)及び年少人口(0～14 歳)の全人口に占める割合は、概ね減少傾向にあります。

図表 13-1 安岡地区人口の変化(1975 → 2010年)



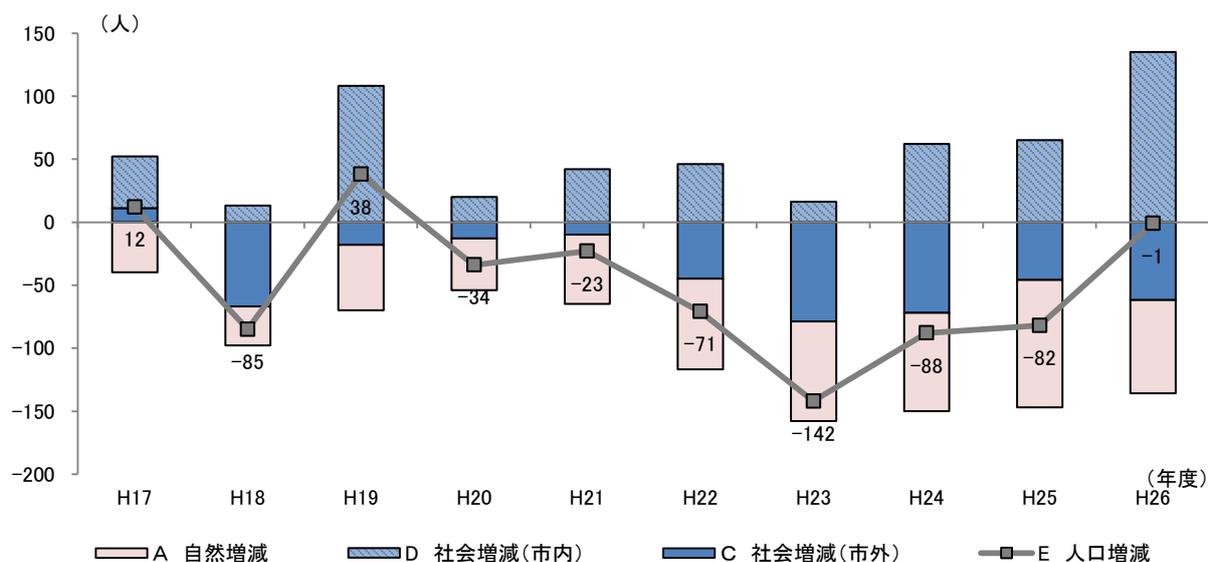
資料) 総務省「国勢調査」を基に作成

安岡地区における 2005(平成 17)年度から 2014(平成 26)年度まで、10 年間の自然増減及び社会増減の推移をみると、図表 13-2 のとおりとなります。

自然増減(A)については、一貫して出生数を死亡数が上回り、減少が続いています。一方で社会増減(B)については、概ね増加傾向となっています。内訳をみると、市外移動による社会増減(C)は概ね減少傾向となっていますが、市内移動による社会増減(D)では、一貫して増加が続いています。(第 1 章(2 ページ)でみたように、安岡地区の当該 10 年間に累計した社会増加率は市内で 3 番目に高い数値となっています。)過去 10 年間ににおいては、社会増加の年の多くで、自然減少数が社会増加数を上回っており、概ね減少傾向の状況にあります。

図表 13-2 安岡地区の人口動態(2005(平成 17)年度～2014(平成 26)年度)

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
A	自然増減 (a-b)	-40	-31	-52	-41	-55	-72	-79	-78	-101	-74
a	出生数	108	104	116	112	114	109	104	92	102	111
b	死亡数	148	135	168	153	169	181	183	170	203	185
B	社会増減 (C+D)	52	-54	90	7	32	1	-63	-10	19	73
C	社会増減(市外) (c-d)	11	-67	-18	-13	-10	-45	-79	-72	-46	-62
c	転入(市外)	321	317	341	303	355	310	273	292	333	263
d	転出(市外)	310	384	359	316	365	355	352	364	379	325
D	社会増減(市内) (e-f)	41	13	108	20	42	46	16	62	65	135
e	転居入(市内)	474	391	494	392	452	418	364	403	459	468
f	転居出(市内)	433	378	386	372	410	372	348	341	394	333
E	人口増減 A + B	12	-85	38	-34	-23	-71	-142	-88	-82	-1



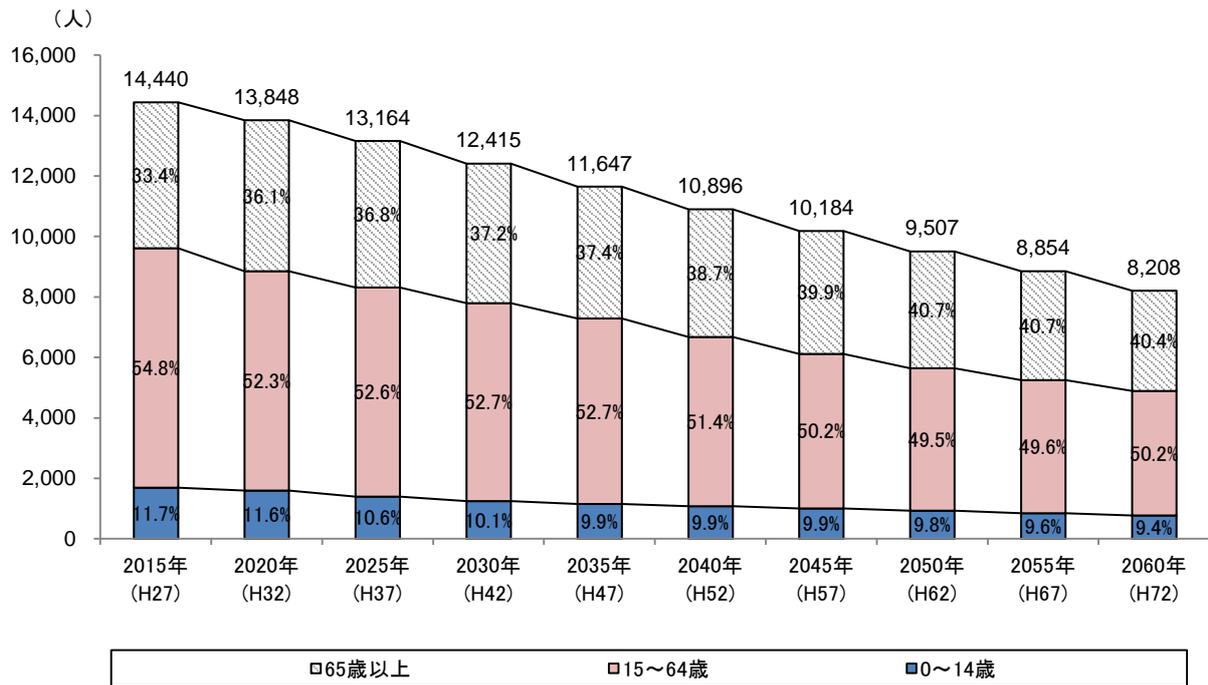
資料) 下関市ホームページ「統計しものせき(地区別の数値)」を基に作成

2 安岡地区の将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠して安岡地区の将来人口を推計すると、図表 13-3 のとおりとなります。総人口については、減少が続く一方、高齢化率は、2055(平成 67)年まで増加を続ける見込みです。

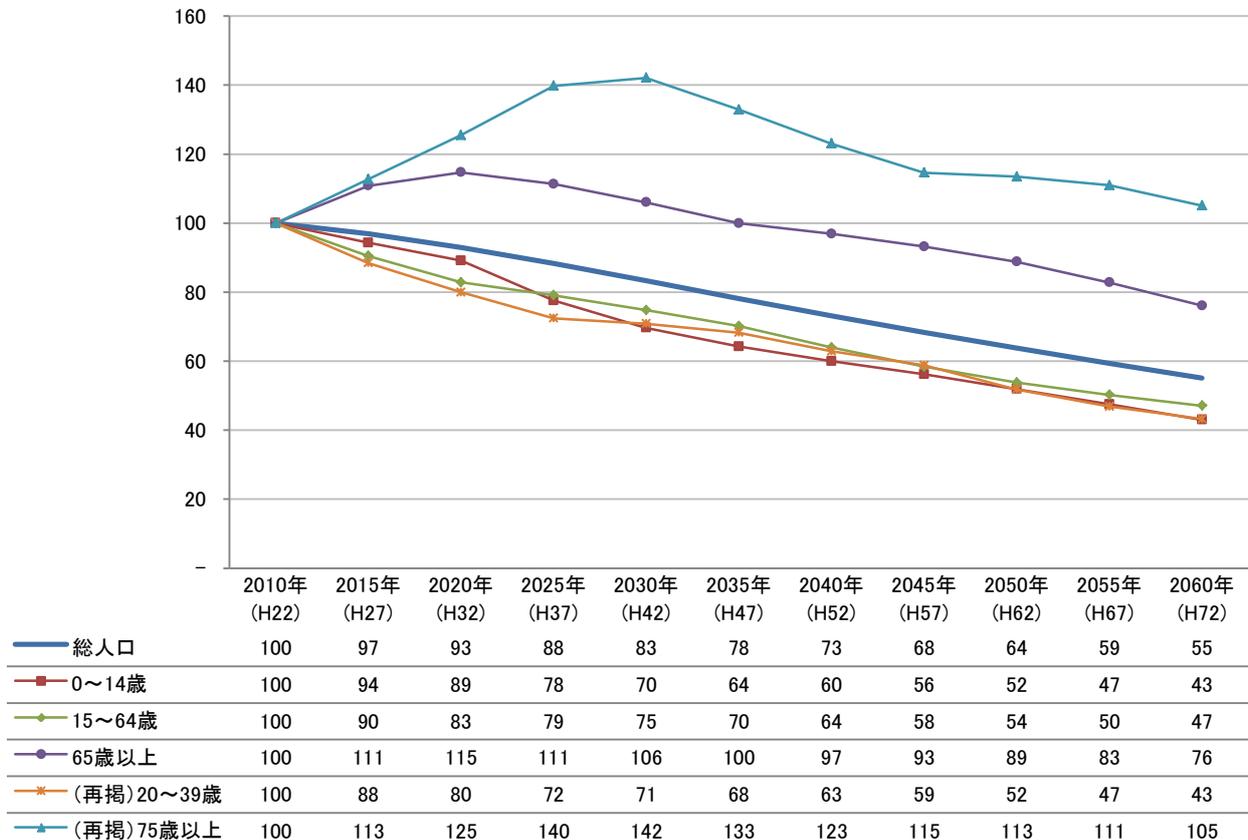
また、総人口及び各年齢区分の人口について、2010(平成 22)年の人口を 100 として年齢区分別人口の推移をみると、図表 13-4 のとおりとなります。総人口、年少人口(0~14 歳)、生産年齢人口(15~64 歳)は一貫して減少を続け、20~39 歳については 2060(平成 72)年に約 4 割にまで減少する見込みとなります。一方、65 歳以上の人口は 2020(平成 32)年まで、75 歳以上の人口は 2030(平成 42)年まで上昇した後、減少に転じる見込みとなっています。

図表 13-3 安岡地区将来人口推計（2015—2060年）



資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

図表 13-4 安岡地区年齢区分別人口の推移（2010年=100）

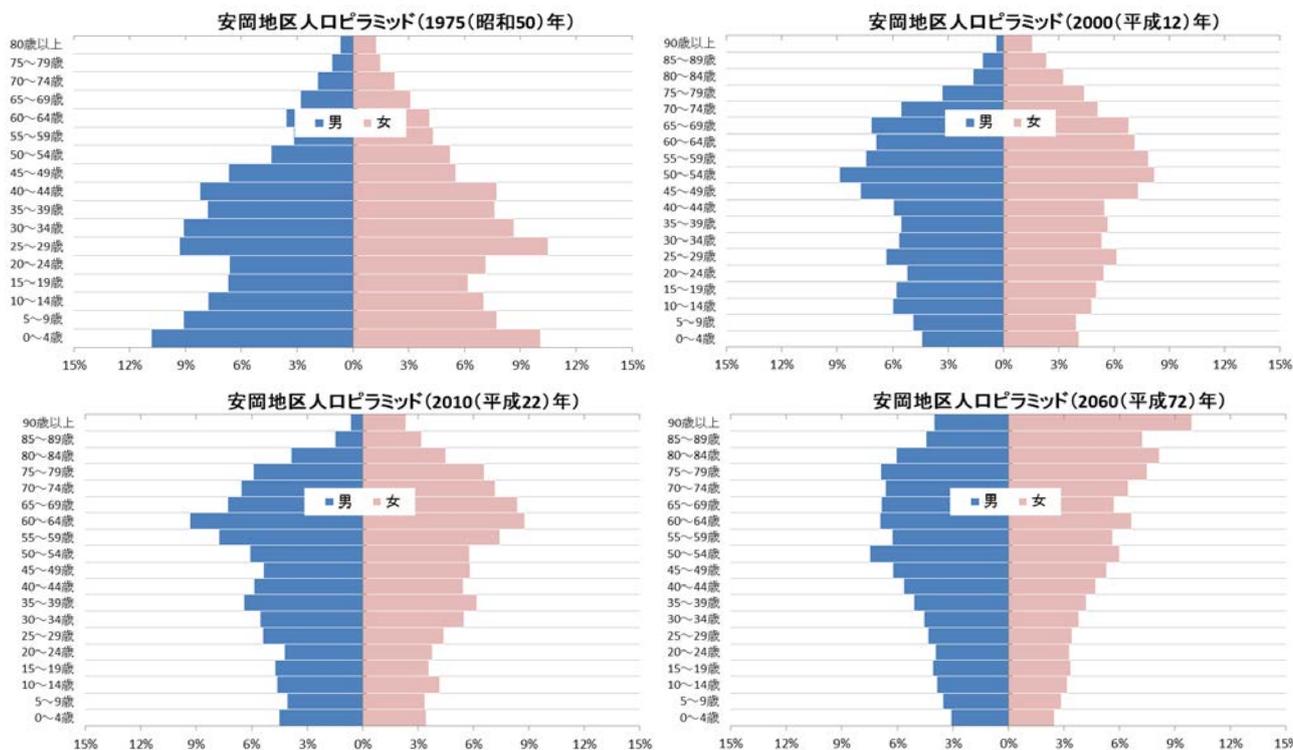


資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

3 安岡地区の人口ピラミッド分析

1975（昭和 50）年にピラミッド型であった人口の年齢別構成比は、若年層の減少・高齢者の増加により、つぼ型に変化していく見込みです。

図表 13-5 安岡地区人口ピラミッド(年齢別構成比)の推移 (1975年 → 2000年 → 2010年 → 2060年)



注) 1975年、2000年、2010年は実績値（年齢不詳を除く）。2060年は下関市推計値。

資料) 総務省「国勢調査」、まち・ひと・しごと創生本部事務局「将来推計用ワークシート」、国立社会保障・人口問題研究所資料を基に作成

4 安岡地区の特性分析

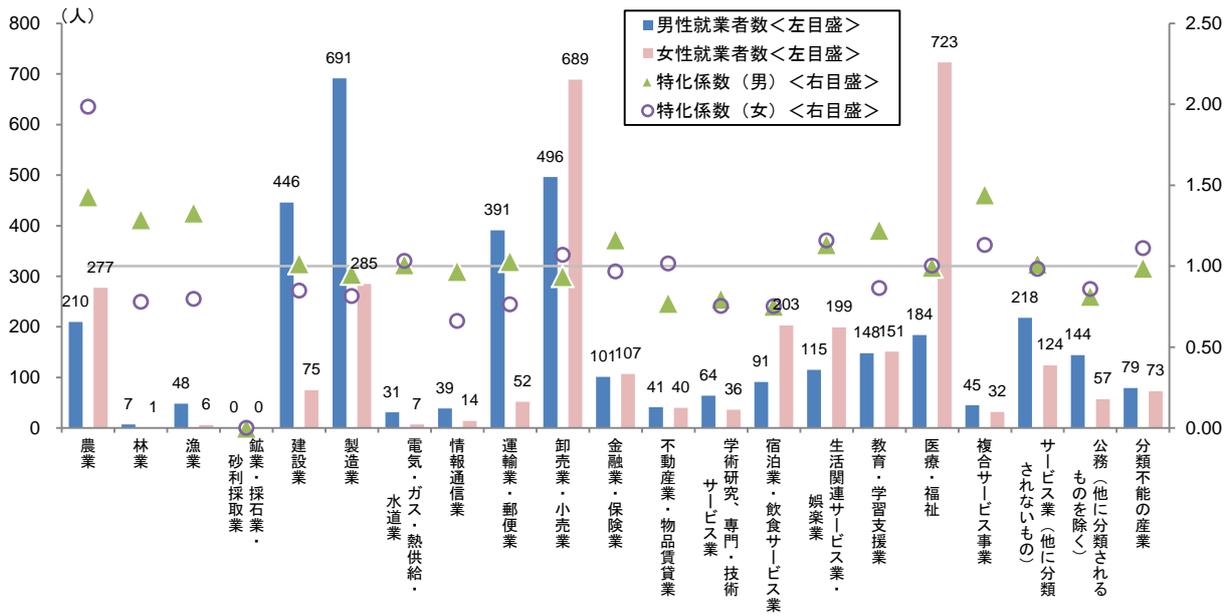
国勢調査（平成 22 年）の小地域集計から、安岡地区の特性を分析します。

(1) 常住地による就業人口 (図表 13-6)

- 男性は「製造業」の従事者が最も多く、次いで「卸売業、小売業」、「建設業」、「運輸業・郵便業」となっている。女性は「医療・福祉」、「卸売業、小売業」の従事者数が突出して多くなっている。
- 本市全体の構成比と比較した「特化係数¹」は、男女共に「農業」の値が最も高いほか、男性では「漁業」や「複合サービス事業」、「教育・学習支援業」の値が高くなっている。

¹当該地区の構成比を本市全体の構成比で除して得た値。ここでは1より大きい産業ほど、市全体と比べて就業者数の割合が大きいことになる。（地区の特徴をみるため、特化係数が高く、ある程度就業者数が多い産業について記述。）

図表 13-6 安岡地区の男女別産業(大分類)別人口 (15歳以上就業者数:男性総数 3,589人、女性総数 3,151人)

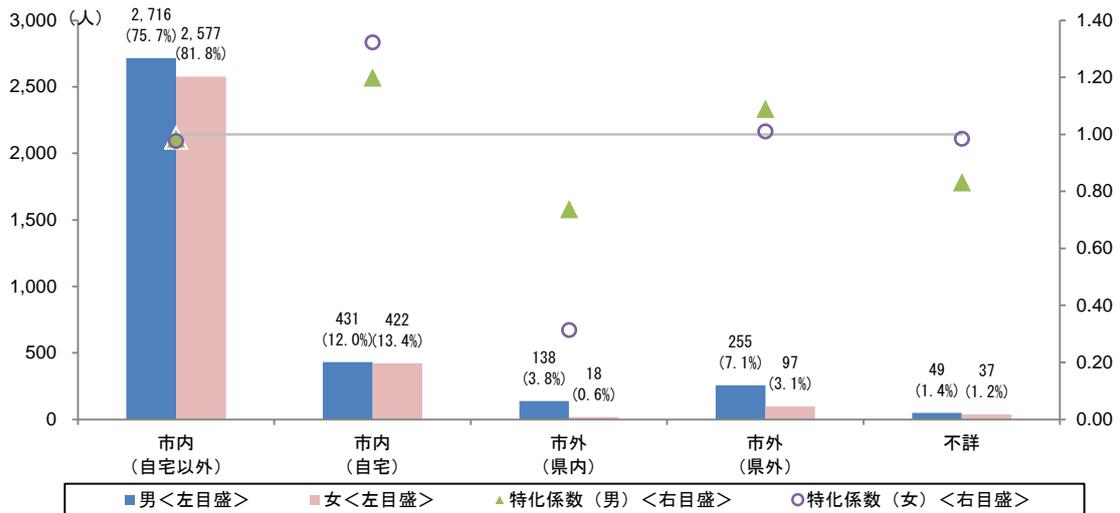


注) 特化係数は下関市全体との比較
資料) 総務省「国勢調査(平成22年)」を基に作成

(2) 安岡地区住民の就業地 (図表 13-7)

- 男女とも「市内(自宅以外)」で就業している人の数が多い。
- 市全体の構成比と比較した特化係数は、男女とも「市内(自宅)」の値が高く、「市外(県内)」の値が低い。

図表 13-7 安岡地区住民の就業地 (15歳以上就業者数:男性総数 3,589人、女性総数 3,151人)

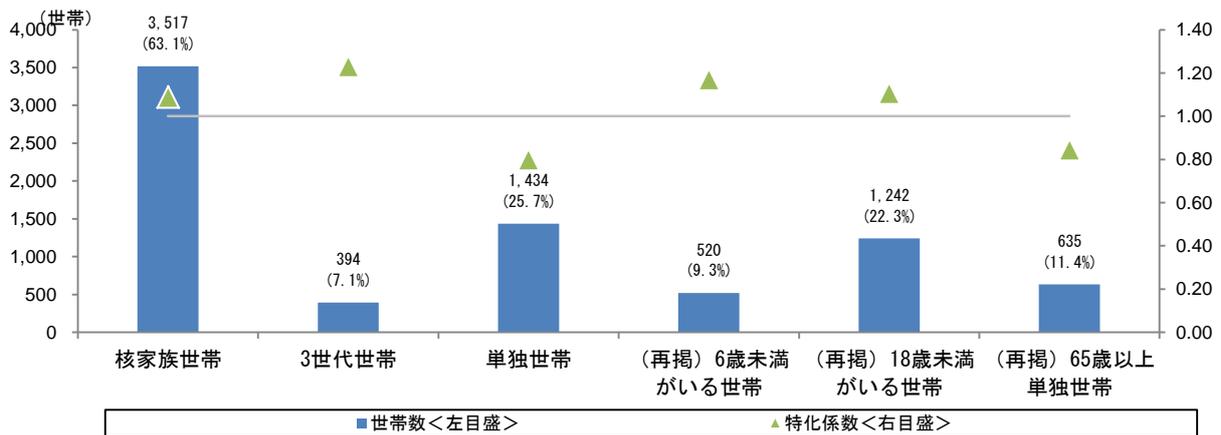


注) () 内の数値は、15歳以上就業者数男女各総数に占める割合。
注) 特化係数は下関市全体との比較
資料) 総務省「国勢調査(平成22年)」を基に作成

(3) 安岡地区内の一般世帯の状況 (図表 13-8)

- ・「核家族世帯」の数が最も多い。
- ・市全体の構成比と比較した特化係数は、「3 世代世帯」、「6 歳未満がいる世帯」の値が高い一方、「単独世帯」、「65 歳以上単独世帯」の値が低い。

図表 13-8 安岡地区の一般世帯の状況 (一般世帯総数:5,578 世帯)



注) () 内の数値は一般世帯数に占める割合。(再掲の値があるため、合計は100%にならない。)

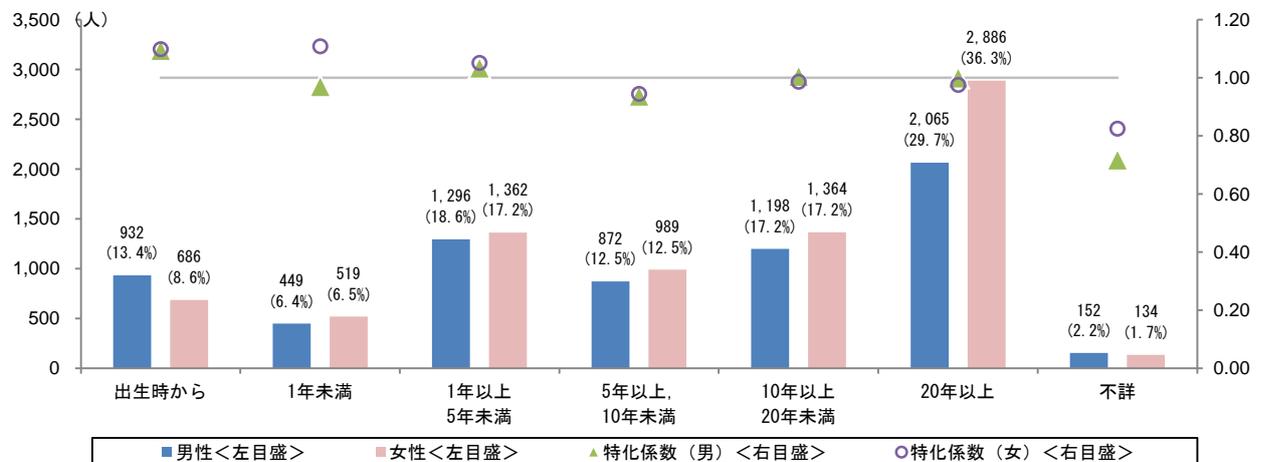
注) 特化係数は下関市全体との比較

資料) 総務省「国勢調査(平成22年)」を基に作成

(4) 安岡地区住民の居住期間 (図表 13-9)

- ・男女とも居住期間「20年以上」の人数が多い。
- ・市全体の構成比と比較した特化係数は、男女とも「出生時から」の値が高く、女性の「1年未満」の値が高い。

図表 13-9 安岡地区住民の居住期間 (男性総数 6,964 人、女性総数 7,940 人)



注) () 内の数値は、男女各総数に占める割合。

注) 特化係数は下関市全体との比較

資料) 総務省「国勢調査(平成22年)」を基に作成